

# 日本不妊看護学会ニュースレター No.3

## Japanese Society of Infertility Nursing (J.S.I.N)

### 不妊看護実践で行き詰ったら、相談に乗ります!!

実践開発委員会 福田 貴美子

実際に患者さんと関わっていく中で、看護職者として「目の前にいるこの患者さんにどのように対応したらいいのだろう?」「患者さんとゆっくり話ができる環境を作るためにはどうしたらいいのか?」などなど、臨床の現場ではシステムや看護観、倫理観などの中で問題やジレンマを感じることもあると思います。

実践開発委員会では、このような様々な問題に直面した時に直接ご相談をお受けし、よりよい不妊看護の方向性を一緒に考えて行きたいと考えています。

このシステムは、まだまだ発展途上の段階なので最初は日本不妊看護学会のホームページからのみのアクセスとなりますが、会員の皆様のご意見も頂きながら、将来的には会員の皆様に有意義に活用していただけるように工夫してゆきたいと考えています。

6月頃より活動を開始する予定です。会員の皆様からのご相談をお待ちしています!

"相談・問題"とは.....>

1. 事例の相談
2. 生殖医療の知識的なことに関する相談
3. 不妊の方と向き合う時の看護職
4. 看護の場の改善（相談室開設など）に  
ともなう相談

#### 目次

* 不妊看護実践で行き詰ったら、相談にのります	1
* 相談される場合は	2
* 特集	3
「不妊看護」を学ぶ、深める、極めるために有益な文献1)	
* 勉強会報告	5
* 理事会報告	6
* 事務局からのお知らせ	7
* 7月勉強会のお知らせ	8
* 第2回日本不妊看護学会のお知らせ	8

## 相談される場合は.....

日本不妊看護学会のホームページにアクセスし、専用の「ご相談内容記入用紙」に相談内容を出来るだけ詳細にご記入ください。

### \*ご相談頂く場合の注意点

1. "相談・問題"によっては、返信までに時間がかかる場合もあることをご了解ください。
2. 実践に即した支援を考えていますので、ご提供いただいた情報に加え、具体的なについてもお聞きすることがありますのでご了承ください。もちろん、ご相談頂いた内容に関してはプライバシーを厳守いたします。
3. 実際の患者様の問題をご依頼の場合は、個人名は出さずに、必ずイニシャルでお書き下さい。
4. 出来る限りの支援を考えておりますが、内容によっては、お受けできないご相談もあることをご了承ください。

## ご相談内容記入用紙

日本不妊看護学会コンサルテーションシート1

返信日 年 月 日	*委員会記入欄 受付番号	*委員会記入欄 返信日 年 月 日
名前		年齢
勤務先 所属		
連絡先 住所〒 電話番号 E-mail 返信を希望する場所(勤務先・自宅(送信は当分はメールのみです。))		
ご相談・問題 症例に関する相談 生殖医療の知識的な事に関する相談 不妊の方と向き合う時の看護職自身のジレンマに関する相談 看護する場の改善にとמונう相談		
ご相談内容をできるだけ具体的に記入してください		

(実際の用紙はA4サイズです)

## 特集 「不妊看護」を学ぶ、深める、極めるために有益な文献(1)

### 【和文献:専門書】

- 荒木重雄、浜崎京子編 : 『不妊治療ガイドンス第3版』,医学書院,2003, 本体¥6,000+税  
荒木重雄、福田貴美子編 : 『体外受精ガイドンス』,医学書院,2002, 本体¥7,000+税  
磯島晋三 : 『改訂イラストでわかる不妊症の知識』,メディカ出版,2001,¥2,730(税込)  
苛原 稔編 : 『不妊症・不育症』,医薬ジャーナル社,2003, 本体¥3,800+税

これらは版を重ねており、解説、図ともに充実していてわかりやすいと思います。値段は安くないので個人で購入するには負担が大きいかと思しますので、職場同僚と工夫して共有するとよいでしょう。

日本不妊学会編: 『新しい生殖医療技術のガイドライン改訂第2版』,金原出版,2003,¥9,030(税込)

これも1996年初版が改訂されました。日本の生殖医療の歴史・発展、現状などがつかめます。とくに学会の見解についてまとめられています。

久保春海編: 『不妊カウンセリングマニュアル』,MEDICALVIEW,2001,¥5,040(税込)

あまり体系的ではありませんが、それはそれで日本の不妊カウンセリングの現状がよく表れている本だと

新川詔夫、福嶋義光編: 『遺伝カウンセリングマニュアル』,南江堂,1995,¥3,990(税込)

遺伝的知識は不妊看護に欠くことができません。この本は遺伝の知識やカウンセリングについてわかりやすく書かれています。

### 【和文献:教科書】

- 川野雅資編 : 『セクシュアリティの看護』,メヂカルフレンド社, 1999, ¥2,730(税込)  
森明子 : IV-6不妊治療に伴う性的問題と援助  
中西睦子監、堀内成子編: 『TACSシリーズ9母性看護学』,建吊社, 1998,  
有森直子、森明子 : -1子どもを身ごもることへの意思決定  
安藤広子、塚原正人、溝口満子編 : 『遺伝看護』,医歯薬出版,2002,¥2,520(税込)  
デール・ハルツェ他(清水淑子監修、溝口満子監訳)  
: 『遺伝看護の実践事例からのアプローチ』,日本看護協会出版会,¥3,000(税込)

まだ残念ながら不妊看護のテキストはありません。前者2つは、手前味噌ですが、不妊治療に際しての対象理解、基本的な看護の考え方に触れています。後者2つは遺伝看護に関するものです。

## 【和文献:専門書】

Bayer, S.R.et al :The Boston IVF Handbook of Infertility, Parthenon Pub.,2002, ¥11,519(税込)

これらは版を重ねており、解説、図ともに充実していてわかりやすいと思います。値段は安くないので個人で購入するには負担が大きいかと思しますので、職場同僚と工夫して共有するとよいでしょう。

Carcio, H.A. :Management of the Infertile Woman, Lippicott, 1998, ¥5,628(税込)

わりと看護的視点で診断・治療について解説されています。不妊とストレスのかかわりやストレス緩和ケアについて解説した章もあります。

Brinsden, P.R.ed. :A Textbook of In Vitro Fertilization and Assisted Reproduction: The Bourn Hall Guide to Clinical and Laboratory Practice, CRC Press-Parthenon Publishers; 2nd edition (April 15,1999), ¥21,677(税込)

英国ボーンホールクリニックの方による本です。そのナースが看護について書いた章もあります。

Ludwig, M. :PregnancyandBirthAfterAssistedReproductiveTechnologies.Springer,2002, ¥5,675(税込)

執筆者はドイツのかたです。欧州でのこれまでの生殖補助技術の蓄積された研究データを紹介しながら生まれた子どもや親子関係等の身体・心理社会的健康について論じています。

Burns,L.H.,Covington1,S.N, :Infertility Counseling A Comprehensive Handbook For Clinicians, Parthenon Pub.,1999, ¥11,519(税込)

著者は米国の不妊カウンセリングの第一人者。カウンセリングの理論的背景がしっかり書かれている。看護の位置づけも明確にされています。

ESHRE :Special Interest Group 'Psychology and Counselling', Guidelines for Counselling In Infertility, 2000. <http://www.eshre.com>

学会のエシュレの不妊カウンセラーらがまとめた不妊カウンセリングのガイドラインです。欧州における考え方がわかります。

Mack, S., Tucker :Infertility Counseling, Bailliere Tindall, 1996

事例が豊富な不妊カウンセリングの具体的な本です。著者らの暖かいまなざしが伝わってきます。

Meerabeau, L., Denton, J.ed. :Infertility-Nursing and Caring, Scutari Press, 1995

英国における不妊看護の発展、看護職の業務などが詳しいです。不妊看護唯一の本。

## 勉強会報告

(中部・関東地区)

日時:平成16年4月17日(土) 14:00~16:00

場所:浅田レディースクリニックホール

参加者:19名

プログラム:

14:00~15:00 事例検討

「不妊治療後妊娠・出産した事例」

名古屋第二赤十字病院

加藤佳代子(認定看護師)

14:00~16:00 事例検討

「長期不妊一夫婦の関係性・自己表出」

トヨタ記念病院

吉川典子(認定看護師)

終了後希望者00VLの説明・施設見学

## 事例検討の概要

- ・産後のイメージのずれがあったのではないかと、妊娠中に知識が得られていないことが訴えの多さにつながっているのではないかと。
- ・治療中の思い、出産の思いの振り返りをすると整理できたのではないかと。
- ・夫が見えてこない。AIHも夫婦での話し合いがなかったのかもしれない。夫婦別あるいは夫婦同席でのかわりが必要。
- ・本人は正直に夫に気持ちを話していないのではないかと？  
夫もこれでよしとしているように見える。  
夫を巻き込んでも良かったのではないかと。
- ・2日目の「死神が見える」という言葉は、産後のうつかもしれない。どのくらい様子を見たらよいか。
- ・援助を求められるリソースの紹介があればよい。
- ・うまく出来ているところもあるので、うまくできているところ・正常なところを引き出し自信を持たせる援

助をするとよいのではないかと。

エリートタイプで本人とスタッフが来ているという認識はずれていた

生命の安全・本人が困っていないところはできていなくてもいいのではないかと。

・不妊の原因や周囲からの圧力など不妊治療を始めた動機も重要である。

・産後の問題には生育歴も関わっている。

## 事例提供者の意見

- ・病棟にいる短期間の中で問題を把握していくには無理な面もある。申し送り体制や地域との連携を今後考えて生きたい。

## 勉強会への感想

- ・勉強になった・参考になった 5名  
(体験した患者のことを思い出した。自分で考えることなど)
- ・他の施設の人とディスカッションでき勉強になった・刺激になった 4名
- ・意見交換で貴重な示唆を得た・楽しかった 3名
- ・仲間がいることを感じ心強かった 3名
- ・看護実践の振り返りが出来た 2名
- ・不妊治療開始から産褥期を通して関わり続けることの難しさを感じた
- ・現状は忙しいが夫婦に関わっていく体制作りが必要
- ・医師の考え中心で看護者の意見が生かされない現状を感じた
- ・GWとして参加しやすい人数だった・意見を言えてよかった 3名
- ・不妊看護を実感できるようになり発展した

## 勉強会に参加させて頂いて

三重大学医学部看護学科助産課程専攻

4年 松田尚子

事例1の不妊治療後の産褥期・育児期への継続看護問題についてです。まず、私がこの事例を一読した直後の感想は、不妊治療中、そして不妊治療によって妊娠した際の患者さんの感情をしっかりと受け止められていなかったのではないかと、という疑問です。不妊治療中A氏は何も考えないようにしていた、と話されています。やはり自分達ご夫婦が受けられる治療であるため、ご夫婦の治療への思いであるとか、治療に伴っての感情であると

か、そういったA氏の感情を積極的に傾聴していくことなどでA氏自身がより主体的に不妊治療に関わっていくことが大切であったと考えます。また、妊娠した際にも、びっくりしたという思いを述べておられますが、妊娠した自己を受容できていたのかな、と思いました。前回の妊娠で自然流産を経験されているとのことで、より流産に対する恐怖心をお持ちであったと推測され、自分が数ヶ月後に赤ちゃんを抱くことをイメージしようとする流産の恐怖がより大きくなってしまっているのではなかったのでしょうか。その際には、妊婦健診時、あるいは救急外来にお越しになった際に、妊娠経過は(赤ちゃんは)順調であることをより一層強調することが大切であったと思います。さらに、妊娠中期になって、それまでは何

も準備する気になれなかった育児用品も、準備する気になったと話されているので、中期以降に積極的に産後のイメージが作れるような関わりが少しだけでも可能であったのではないかと考えます。

また、不妊治療中は妊娠したらこの苦しみから解放される、妊娠した時は出産すればこの苦しみから解放されると思っていたのに、いざ出産してみると育児という問題がA氏に大きくのしかかってきたのではないかと、思われます。そうであるならば、A氏は不妊治療から妊娠へ、妊娠から出産へ、出産から育児へとスムーズに移行できていなかったと考えます。

そのような時は、勉強会でも先生方が議論されておられましたが、ご主人がより大きな存在になってくるのだと私も思います。A氏のご主人が育児に関わってくれることを大変強く望みながら、毎晩遅くまで仕事をしている夫に気を遣って本当の気持ちをご主人に話してこられなかったことも考えられるな、と思いました。(面会に来られたご主人の前では表情が良いということから考えました)グループワークの場でも発言させていただきましたが、産後から夫婦の関係が良好にいくように関わっていくよりも、不妊治療中から夫婦二人で治療に取り組んでいる、妊娠中は二人で妊娠経過をたどっているという自覚がA氏夫婦にはより必要であったのだと思いました。よってその自覚を促すような働きかけが必要であったと感じます。またこのことと関連して、沐浴指導をご夫婦で受けられたということですが、沐浴指導を受けたことがご主人にとっては大きな育児への関わりであったかもしれません。夫婦で沐浴指導を受けられたことをA氏がどのように感じておられるかどうかは分かりませんが、ご主人の育児参加について、ご夫婦それぞれが互いを認めあっていくことが産後の夫婦関係にはとても大切になってくるのだと思いました。また、病院側でもご主人が休みの曜日などを利用して、夫婦で沐浴を体験する場などを提供するなど夫婦で育児に関わる場を作っていくのはどうか、と感じました。

次に事例2の長期不妊患者、治療終了についてです。私自身不妊看護の経験はおるか、臨床経験もないため長期不妊の患者さんがどのような気持ちでいらっしゃるのかは、本や論文を読んだり、想像する程度しかできないので、「今回の治療で不妊治療をやめます」と患者さん側から医療職者に決意を持って話されるケースは臨床の場ではどれくらいあるのかな、と疑問に思いました。私が想像するところでは、ご自分から言い出されるケースは少ないのではないかと、思います。それは、患者さん自身のご自分で治療の限界はここ、という明確な意思を持つことができない(今度治療をしたら妊娠するかもしれない、という期待を患者さんが持っておられるのではないかと、思うためです)からであると考えます。そうであるなら、医師の治療に対する考え方が大きく左右してくると思います。医師の考え方の違いは、助産師・看護師さんが患者さんとどう

接していくか、ということにも大きく影響してくるのではないのでしょうか。しかし、大切なことは患者さんが治療に対してどのような思いを持っておられるのか、治療にどう取り組んでいこうと考えているかを患者さんと一緒に明らかにしていき、主体的に治療続行を、あるいは治療終結・中断を決定していただけるようにすることではないかな、と感じています。しかし治療終結の決定は本当に難しいことだと感じました。ただ治療を続けることも、治療を終結させることも最終的にはご夫婦の判断となるところが大きいと、医療職者を交えた面談をできれば回数を多く行っていく必要があると思いました。必要時、妻や夫の個別での面談、夫婦での面談など、面談の形式を変化させていくことも大切であると思います。

## 会計報告

収入 参加費 300円×18名=5,400円

支出 コピー費 1,000円 茶菓代 2,540円

計 3,540円 残金 1,860円

残金は今後の勉強会のため不妊看護学会会計に入れたいと思います。ご了承ください。

謝辞: 今回の勉強会では浅田レディースクリニック  
院長浅田義正先生のご配慮でクリニックの  
ホールをお借りできました。  
ありがとうございました。

## お知らせ

これからの勉強会では、会員皆様の実践の発表や意見交換も多く取り入れて生きたいと考えています。

また、テーマを設けて各施設の実践報告なども考えております。皆様の看護体験でこんなことを喜ばれた、こんなことに困っている、新しい試みでこんなことを始めたなど、どんなことでもかまいませんのでお知せください。

## 連絡先

柴田 文子

〒651-0073

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1

国際健康開発センター 4階

EI本看護協会神戸研修センター

TEL 078-230-3250(代表)

078-230-3251(直通)

FAX 078-230-3256

E-mail: fumiko.shibata@kobe.nurse.or.jp

## 第6回理事会報告

**日時**：2004年5月15日(日) 13:00～15:00

**場所**：聖路加看護大学 6階 601

**出席理事**：森(明)、森(恵)、岸田、有森、村本、野澤、福井

欠席：浜崎、此川、遠藤、福田

**幹事**：清水、長岡

### 報告事項

- 1.各委員会報告
- 2.第2回学術集会報告
- 3.学術誌第1巻1号の発刊について5月末発行

### 審議事項

- 1.入会申込者の承認第4回書面16名、第5回書面9名、今回5名の承認
- 2.教育推進委員会
  - (1)実践看護セミナーは聖路加看護大学COEとの共催で行う
  - (2)平成17年度活動は認定看護師との連携、学会のサポート体制の充実を図る
  - (3)認定看護師の活動証明書(案)は継続審議
- 3.ニュースレターのHPへの掲載は、発行1年以内のものは目次のみ、1年を過ぎたものは全ページ掲載する。
- 4.実践コンサルテーションは、会員に限っての相談であること、組織(立場)が違うという前提での回答であること、回答までには時間を要することを了解の上対応する。回答は、事務局から返信する。

## 事務局からのお知らせ

- 1 9月から会計年度が変わりますので、16年度の会費納入をお願いいたします。
- 2 学会のホームページができましたので、ぜひご覧ください。学会へのご要望やご意見などもホームページ内で受け付けておりますのでご活用下さい。

ホームページアドレス<http://jsin.umin.jp/>

- 3 連絡先・所属の変更がありましたら、メールもしくはFAXでお知らせ下さい。

**連絡先** e-mail:jsin@slcn.ac.jp

## 第2回 日本不妊看護学会学術集会のご案内

日時：平成16年9月5日(日) 9:00～17:00

会場：聖路加看護大学 東京都中央区明石町10-1

会長：浜崎京子 (中央クリニック)

テーマ：『不妊とカップルの性を考える』

### 7月勉強会のお知らせ

#### 関東地区勉強会

日時：平成16年7月17日(土)

14:00～16:00

場所：聖路加看護大学2号館

3F交流ラウンジ

申込み・問合せ

柴田文子

〒651-0073

兵庫県神戸市中央区脇浜海岸通1-5-1

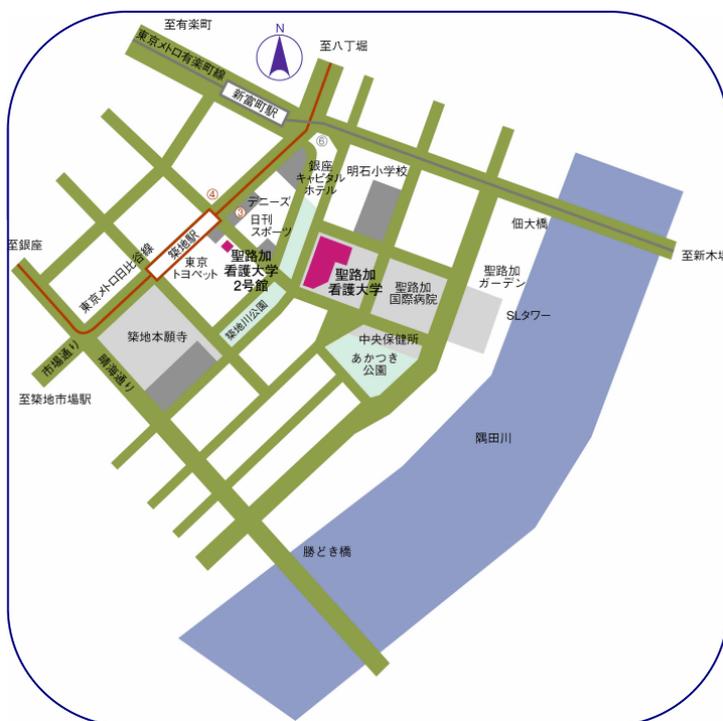
国際健康開発センター4階

TEL 078-230-3250(代)

230-3251(直通)

FAX 078-230-3256

E-mail fumiko.shibata@kobe.nurse.or.jp



### 編集後記

梅雨の候、今年度の自分の課題に向かって日々ご活躍のことと存じます。各県の不妊相談センターも、平成16年度末までに各県1箇所を目標に設置が進められ、現在設立ラッシュになっております。身近なところからお手伝いしませんか。そして、困ったら学会でのコンサルテーションを活用しましょう。

(広報委員:遠藤・林・小林・丸山)

### 日本不妊看護学会

Japan Society Infertility Nursing  
(J.S.I.N)

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1

聖路加看護大学内

Tel & Fax 03-5550-2266

E-mail jsin@slcn.ac.jp